栃身連

第132号

発行所
一般財団法人
栃木県身体障害者福祉会連合会
宇都宮市若草1丁目10番6号
とちぎ福祉プラザ2階
発行人　麦倉仁巳
TEL　028-624-8408
FAX　028-624-8418

創立60周年を迎えて

一般財団法人
栃木県身体障害者福祉会連合会
会長　麦倉仁巳

栃身連が創立60周年を迎えることができましたことを皆さんとともに喜びたいと思います。

当会は、昭和33年6月に県内の市郡身障者福祉会を加盟団体として故川村会長を中心として発足、昭和59年に財団法人格を取得し、平成25年には制度改革により一般財団法人として今日を迎えることができました。

また、昭和54年の栃木県身体障害者団体連絡協議会の設立や平成元年の栃木県障害者スポーツ協会の設立にも主体となって成し遂げることができました。

これらは諸先輩のたゆまぬ努力と障害者を理解し惜しみないご支援をいただいた行政機関はじめ関係各位の賜物であると深く感謝申し上げます。

顧みますと、障害者福祉も昭和25年の身体障害者福祉法施行以来、数々の変革を経て障害者差別解消法が施行され、従来の身体、知的、精神に加えその他の心身の機能障害が加わり「社会モデル」の考えが取り入れられ、合理的配慮、共生社会の実現、情報の確保が明記されるまでになりました。

さらに2年後の東京パラリンピックに向けて国では「ユニバーサルデザイン２０２０行動計画」が示され、「心のバリアフリー」を推進しており、栃木県においても２０２２年の全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」に向けて準備をしているところであり、これを機に障害者の社会参加と理解促進並びに栃木の魅力を全国に発信できたらと思います。

栃身連としても60周年を機に過去を真摯に受け止め将来を見据えた福祉事業を展開したいと存じますので会員はじめ関係者の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げ挨拶とさせていただきます。

なお、この度の会報は創立60周年記念特集号とし、各市町で活躍されている構成団体長の「生い立ち」をご紹介しています。限られた紙面でありますので十分ではありませんが、お人柄などを知っていただく機会となれば幸いです。

この機関紙は
赤い羽根共同募金
により発行しています

宇都宮市障害者福祉会連合会
会長　麦倉仁巳（むぎくら ひとみ）
平成10年就任

昭和22年、農家の長男として生を受け、高校卒業と同時に家業に従事するが、19歳の時交通事故により右下腿の切断を余儀なくされ８か月間の入院生活を送る。

当時の病室は、兵舎を再利用したものであり１部屋に10人余がベッドを並べたものであった。自ら傷口をクレゾールに浸して消毒し、若い看護婦さんに後処理を任せ、食事は寝ている胸の上にお膳のまま置かれ食すも否も好きにしての状態であった。

このような体験は、プライドを捨てる勇気と生きるための精神力を培うものでもあり人生観を変えた。

退院後は身の回り健常者ばかり。義足を着けた脚は皮がむけ血が滲みながらも階段を２段ずつ昇る努力もした。

そんな折、証券会社の役員から「君みたいに人生のどん底に落ちた人が会社に必要だ」と誘われ、証券マンとしての人生を歩むことになったが、周りは大卒のキャリアばかりであった。

学力をカバーすべく証券外務員資格をはじめとして宅地建物取引士、無線技士、危険物取扱者、ファイナンシャルプランナー、ビジネス実務法務などの資格取得をした。

このような背伸びした生活の中で障害者団体の存在を知り、その仲間といると精神的に和み心のオアシスとなっていった。

その後、職場や妻の理解もあり市の会長を引き受け、行政との関りで海外の障害者との交流をもつこととなる。

平成25年、前小川会長の急逝により栃身連会長を引き継ぎ５年目を迎える。

足利市身体障害者福祉会連合会
会長　原康（はら やすし）
平成14年就任

好きな言葉「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」

昭和６年、理容業を営む父の５人兄弟の４番目二男として足利市大月町で生まれる。

生後１年半の頃、小児麻痺に罹り42度の高熱で九死に一生を得るも右下肢の機能を失う。さらに５歳頃「おたふくかぜ」から中耳炎になり右耳の聴覚も失う。

小学校入学の12年、支那事変「日中戦争」勃発、16年、大東亜戦争「太平洋戦争」に突入。

軍需工場で働き、県立足利工業学校夜間部に通学。敗戦後の混乱期、25年に兄が鉄工所を起業、原鉄工に勤務。

26年10月、父の急逝により家業の理容業を継ぐこととなり29年４月、作新高等理容美容学院通信課程に入学、32年理容師免許取得、３年後に理容所管理師免許を取り30歳で理容所を営む。

37年に結婚、３男２女を授かる。41歳で自動車運転免許証を取得する。

同じころ足利市北部身体障害者福祉会入会。56年足身連代議員、63年北部福祉会副会長、平成４年同会長となり、２年後の平成６年足身連副会長に就任。前会長を補佐し、14年足身連会長となる。

現在、栃身連理事として17年目を迎える。その間平成20年栃身連副会長に推挙され、小川前会長のもと５年間と麦倉会長との４年間、障害者福祉について御指導頂いたことが大きな財産である。

栃木市身体障害者福祉会連合会
会長　江原昭吉
平成22年就任

生家は自転車販売業。昭和17年、６人姉兄弟の５番目として生まれた。

私が障害者になったのは、生後８ヶ月位の時で、病名は脊髄性小児麻痺である。

当時は太平洋戦争中で、医師も小児麻痺についての知識が少なく、父母は知り合いの医師に相談したが、動けるようになれば、見つけものと言われたそうだ。その後、生後２年が過ぎた頃より伝い歩きが出来るようになり、ひとりで歩くことが出来るようになった。小学校に入る頃には、自転車に乗ることが出来た。中学生の時、当時は14歳で申請が出来たバイクの運転免許証を取得した。日曜日にはバイクに乗ってツーリングを楽しんだ。

高校卒業後は栃木信用金庫に就職が決まり、本店をふりだしに預金業務・得意先業務・貸付業務等を務めた。

得意先業務のときは、バイクで雨の日も雪の日も風の日も得意先を訪問して、各地の顧客と出会い良い思い出が出来た。大平南支店・都賀支店では支店長を務めさせていただき、平成14年定年退職した。

私と身体障害者福祉会の関わりは、昭和42年に身体障害者手帳の交付を受けてからである。昭和48年に栃木市身体障害者福祉心光会青年部を立ち上げ、初代会長として４年間務めた。その後、平成12年４月の心光会総会で会計になり、平成14年４月の総会で、前大山会長に推され会長に就任した。現在は旧栃木市・大平町・藤岡町・都賀町・西方町・岩舟町が合併し現在の連合会となっている。

佐野市身体障がい者福祉会
会長　横塚武夫
平成23年就任

中学卒業後、大工見習いとして埼玉県越谷市で働きはじめた。

弟子入りから10年ほど経った昭和43年、年老いた父の跡を継ぐことを決めたちょうどその頃だった。

建築作業中に左腕が機械に巻き込まれてしまった。左前腕を切断したのは26歳の時だった。結婚して一年目、妻は妊娠していた。ショックで予定より早く出産、親子三人で入院する状態だった。

退院後、眠れない日が続いた。この先どうなるのかと不安な毎日。次第に落ち込み、我を見失い家族に当たり散らす情けない自分がいた。

そんな折、福祉会の役員が県のスポーツ大会に誘ってくれた。とても行く気にはなれずに断り続けていたが、熱心にすすめられ、応援にだけならと参加することにした。会場では自分よりはるかに重い障害を持つ選手たちが明るく元気にしている姿に感動。腕一本くらいで落ち込んでいた自分を反省、気持ちを切り替え前へ踏み出す勇気をもらった。

その後、町の福祉会に入会。障害者相談員に任命されてからは、地区の会員を訪ね歩き話を聞いてまわった。そのうちに皆が自分を待ちわびてくれるようになった。同じ気持ちを共有し信頼関係をもてたことが嬉しかった。

現在は佐野市の会長を務めているが、昨年大病を患い静養中である。これを機に後進に道を譲り新しい風を吹き込んでほしいと願う。

福祉会に入会したおかげでたくさんの人とめぐり合うことができて本当に良かったと思っている。

鹿沼市身体障害者親交福祉会

会長　葉山　廣（はやまひろし）
平成25年就任

私は粟野町に生まれ育ち、障害者になったのは50年も昔の話になる。

高校を卒業後、大工になりたくて工務店に就職した。

20歳の時、日曜日に近所の家を建てるため製材所の手伝いに行き、大きなバンドノコギリを使った。丸太を製材していたとき、不幸にも、右手が巻き込まれ指を切り落としてしまった。親指と人差し指だけになり、重い木材を持ったり金槌を使うときには大変苦労した。

「親からもらった五体満足の体だから、もっと大切にしてくれよ」近所の人に言われた時は「本当に申し訳ないことをした」と反省の日々を過ごした。一瞬のミスで起きた事故だが、反省とそれを悔やみ、毎日が悲しく苦しい時が続いた。

人づてに粟野に身障者の団体があることを知り身障福祉会に入る。若い人は少なく年配者ばかりではあったが、一緒に旅行に行き、スポーツ大会に参加し、明るく皆と談笑できるようになった。

平成18年に鹿沼市と粟野町が合併した。それに伴い、粟野町の団体も鹿沼市の親交福祉会に合併となり仲間入りすることになった。鹿沼の会員の皆さんと上手くやっていけるか心配をしていたが、当時の菊池会長さんをはじめ、役員や会員の皆さんが粟野からの加入者を歓迎してくれた。

現在は会長となり5年が過ぎた。会員同士の援護活動も深まり、高齢者や重度障害者が多くなってきてはいるが、お互いをよく理解し仲良く励まし合い、今後の活動を積極的に進めていきたい。

日光市身体障がい者福祉連合会

会長　君島　一（きみじまはじめ）
平成28年就任

昭和23年10月、ようやく電気がついた。灯りの下、栗山村に4人兄弟の末っ子として生まれた。

林業を営んでいた父が事故で急死したのは中学2年の時だった。今までの生活が一変し、高校進学をあきらめ当時の今市市にある畳店に住込みで就職した。年季奉公を含め8年間勤めた畳店を辞め、自宅に帰って開業したが、なかなかうまくいかず、東京にいる友達を頼って半年後に上京した。畳店の紹介をお願いしても、当時オイルショックで不景気だったため、なかなか決まらず、やっと北千住にアパート付きの仕事が決まった。

約3年間の修行を積み、栗山へと帰ってきた。実家に作業場を作って本格的に取り組み、湯西川温泉のホテルから仕事を請け負うようになり順調な滑り出しとなった。

地域でも同年輩の友人たちと青年団を立ち上げ、団長も務めた。また58年には栗山村の補助を受け青年団で「ハム工場」を立ち上げた。

翌年の3月、不注意により右手首を切断し半年の入院・リハビリを余儀なくされ、私の生活が一変した。

60年から、障がい者の会に入り活動に参加するようになった。平成14年より、栗山村身体障害者福祉会会長に就任し、率先してスポーツ大会などに参加した。

18年、市町村合併により「日光市身体障がい者福祉連合会」と名称が変わり、副会長となり、2年前より会長に就任し、現在に至る。

家族や周りの皆さんに支えられながら、畳職人として仕事をしている。

小山市身体障害者福祉会連合会
会長　清水（しみず）　浩（ひろし）
平成15年就任

旧穂積村（現小山市穂積地区）の農家に生まれた。9人兄弟の末っ子。生まれつきの手指の障がい（短指症）があった。

旧尋常高等小学校在学時に真珠湾攻撃により、太平洋戦争が起きたのを、自宅に新聞の集金に来た人が「いよいよ戦争が始まった」と話したことから知ったのを覚えている。戦時中は、勤労奉仕にも従事し、田植えや養蚕農家の手伝い、タニシやイナゴ取りをやったことが記憶に残る。戦後、当時は土地や田んぼが多くなければ、農家を継ぐことはできなかったので、将来のため小山高等学校商業科に入学。そろばんの試験を2度受け、途中まで解けるのだが、障がいのため指が震えて玉が動いてしまい、全問回答できなかったことが思い出される。

高校卒業後、穂積村農協に入所。事務仕事のため文字を書いたり、そろばん等で苦労した。障がいの治療のため何か所も病院を受診。国立栃木病院（現栃木医療センター）の医師から教えられた「失われたものを数えるな、残された機能を最大限に生かせ」という世界的に有名な言葉に感銘を受け、その後、字を書く仕事でない、テレビの修理やタクシーの配車の職業に就いた。

妻とは職場で出会い、現在の天皇陛下のご成婚と同じ頃に結納したため、パレードの中継を一緒にテレビで見たことが感慨深い。

若い頃から身体障害者福祉会の活動にも積極的に参加。15年前からは、会長の職も務め、身体障害者の福祉活動に尽力している。

真岡市身体障害者福祉会
会長　村上（むらかみ）　八郎（はちろう）
平成29年就任

自動車部品の製造会社に勤めていた昭和63年、交通事故により脊髄損傷者となり車いす生活をしている。

事故で生活は一変したが、さまざまな人に助けられ、何とか立ち直ることが出来た。兄弟が福島から交代で病院に来て看病してくれた事、会社の仲間が気を配ってくれた事、又、家内が看護師で救急搬送された病院に勤務して居て、脊髄損傷という怪我を理解して動揺することなく支えてくれたことが大きかった。事故後2年間の病院生活を経て、元の職場に復帰。仲間の助けを得て何とか過ごすことが出来た。

55歳の時に早期定年の形で会社勤めを辞めた。会社勤めの時は障がい者や福祉のことには関わったことがない為、知らないことばかりで的外れなことをしたり、言ったりもした。怪我をして10年目少し落ち着いた頃に、一番心配し世話してくれた母が突然亡くなり、次男も事故で亡くなってしまった。このときは自分が怪我した時よりも大きな衝撃で、一時は生きて行く気力さえ無くしていた。論語の中の一節「死生有命、富貴在天」という言葉は私の気持ちに深く刻まれている。運命には逆らえないが、意志を強く持って行動することで思い通りに過ごせると思う。怪我をした時から新しい人生が始まったと思えばこれも一つの人生。積極的に社会参加し楽しく生きる道を探れば障害は不自由であっても不幸ではないと言える。これからの残された時間は障害者や地域社会の為にと考え、この思いは忘れず生きて行こうと思う。

大田原市身体障害者福祉会
会長　前田則隆
平成28年就任

母から聞かされた話からすると、私は生後７ヶ月で40度以上の高熱がでて脊髄性小児麻痺に罹り１歳過ぎても歩くどころか立てなかったが、その後マッサージ訓練等を経て、元気に小学校に通いだすことができた。

小６から中１にかけて、栃木県立肢体不自由児施設「若草学園」に親元を離れて入院、その間手術治療訓練をうける。

その当時の仲間が、現在まで深くかかわった大事な仲間で、県内各地の障害者福祉会で活躍されている。

その後高校、大学を卒業、金融機関に就職、そこで今の伴侶に出会った。

障害者の私の申し出を受けてもらって結婚、３人の子供にも恵まれ旅館業を始める。

しかし私の価値観、心構え、習慣等ことごとく対立、幼い子供たちには２人のいやな場面を見せていて済まなかったと思っている。

正直どうも私のほうが分が悪いことが多かったので、妻に負けた感じが強く、いつか妻に勝ちたい、いつか尊敬される伴侶、経営者になりたいと思うようになった。

自分がずれていることに気が付いた36歳のとき、自分を変えようと一大決心、妻の強い指摘に助けられ50歳を過ぎたころからようやく穏やかな生活を得ることができた。

今年は結婚40周年。母親、３人の子供たちとその家族総勢11人で祝うとともに残りの人生の再スタートの年と位置づけ、二人で新たな目標をもって進んで行きたいと思っている。

矢板市身体障害者福祉会
会長　室井　祐
昭和62年就任

昭和４年、９人兄弟の長男として生を受けた。その年は世界恐慌の年であった。その影響を受けて、６年に満州事変が起こり、12年に支那事変、16年には太平洋戦争勃発という戦火の時代に幼少期を過ごした。ゆえに子供の頃の遊びと言えば専ら戦争ごっこであった。

学校においても、軍人勅語の授業が行われ、農村部では、男性は徴兵され、農耕用の馬でさえ軍馬として徴用されたため、残された老人・女性・子供が手作業で農作業をしなければならず、まさに戦争一色の時代であった。

15年、少年飛行兵に志願し、難関を突破し立川陸軍少年飛行兵学校へ入校した。

多くの方に見送られ出征したが、昭和20年８月15日、日本は敗戦し、再び学校へ戻り勉学へ勤しんだ。

戦後は物がない時代だった。卒業後は家業の木工所で働き、関東や福島県の業者から買い入れた欅で製品を製造し、アメリカへ輸出した。製造中に丸鋸で右親指を切ってしまい、切断こそ免れたが、機能を喪失したため身体障害者手帳を取得した。

また、47年より市議会議員を９期務めた。今日まで障がい者福祉の向上と理解促進のため邁進している。その功績が認められ、平成20年には旭日小綬章を授与された。

去年の秋に88歳を迎えた。健康と家族に恵まれ、身体障害者福祉会の事業に精力的に活動できることは幸せであり、現在の平和な日本で、仲間とともに過ごす穏やかな日々に心から感謝している。

那須塩原市身体障害者福祉会
会長　高橋（たかはし）　亨（とおる）
平成28年就任

米国との戦争が始まった昭和16年、私は小学校3年生だった。物も段々なくなり、学校には素足で行き、足が痛くて歩けない事もあった。家が農家だったことから、家に帰ると仕事が待っていて、小学生でも毎日のように仕事に励んだ。

やがて終戦を迎え、私も中学校を卒業したが、仕事もなく、家の仕事を手伝っていた時に、祖母に「これからは手に職をつけるべきだ」と言われたのを機に建築職人になると決意した。

幸い近所に大工の棟梁がいたことから弟子入りした際、「辛抱して仕事を覚えれば必ず家を建てられるようになるから」と言われ、建築の道を歩み始めた。

当初、建築の仕事になかなか馴染めなかったが、5年間見習いとして働いた。

そして、一人前と認めてもらい、一人で墨付けをして建築を任された時には、夜も眠れぬほどだった。数棟の建築に携わり、努力を重ね、精進した。

その後、仕事を求めて東京へと出た。当時は交通量の少ない渋谷のスクランブル交差点を、大工道具を自転車の荷台に付け出勤したことが思い出される。東京では著名人の家の建築にも携わった。

数年の東京での生活後に田舎に戻った頃には数多くの仕事の依頼があり、若い職人を雇い、自分の経験を生かして五人の職人を育て上げた。

平成15年に心臓を患い、大工の棟梁からは身を引いたが、現在は職人としての経験を生かし、シルバー人材センターで働いている。

さくら市身体障害者福祉会
会長　白井（しらい）　新（あらた）
平成26年就任

昭和21年、那須郡上江川村にて5人兄弟の3男として生まれた。

私が生まれた後、父と母は開拓者となり、子ども5人を育て上げた。30年には上江川村と塩谷郡喜連川町が合併し、私たち家族は喜連川町穂積にて過ごした。

18歳の時、東京都羽田にあるプロパンガスの会社に就職し2年勤めた後退職。その後大型免許を取得し、トラック運送の仕事に入った。北は青森、南は九州までトラックを走らせ、仕事を頑張っているときに不幸が起きた。

47年、千葉県幕張市の埋め立て工事を行っている場所へ荷物を輸送に行き、荷卸しの際、右足大腿切断という大きな事故に巻き込まれ身体障害者となり、その後、氏家町身体障害者福祉会に入会した。

52年、理髪店を開業、妻と2人で3人の男の子を育てながら、福祉会の役員になり、県や郡のスポーツ大会、日帰り研修などに積極的に参加してきた。

平成7年に氏家町身体障害者福祉会副会長と町の相談員になり、17年に氏家町と喜連川町が合併しさくら市となった後も、副会長と相談員を継続、その後、四代目の会長に選任され、現在、会の運営に励む傍ら、昨年度からは栃身連の副会長にも選任された。

これからも会員の皆さんと協力しながら、会の益々の発展のためにがんばっていきたい。

那須烏山市身体障害者福祉会
会長　岡崎一良（おかざき かずよし）
平成28年就任

昭和18年、旧烏山町に生まれた。

父親は19年に出兵、20年にフィリピンで戦死した。

私は父親の顔も知らないまま、母一人に育てられた。

高校を卒業後、東京で就職して4年ほど経った頃、母が病に倒れ、やむなく地元に戻り、近くの会社に入社した6ヶ月目のこと、不慮の事故で二本指を切断した。タクシーで毎日3ヶ月間通院し痛みに耐えた。

その後、烏山町身体障害者福祉会に入会。26歳で結婚、3人の男の子を授かった。

子供達もそれぞれ独立し、約50年、妻にも感謝しつつ、地域の相談員等も経て、友人達の手助けを得ながら、無我夢中で落ち込む事もなく前向きにと思い過ごして来た。

平成3年、石川県で開催された全国身体障害者スポーツ大会に参加、走り幅跳びで銅メダルをもらい、一生忘れる事の出来ない思い出となった。

また、地域のボランティアとして、社会福祉法人等で5年間活動した。

平成18年からは福祉会の副会長を務め、その後会長に就任した。

現在は色んな方とグランドゴルフ、カラオケ、山野草と幅広く、健康の為に楽しく過ごしている。

これからも地域の為に、会員と共により良い福祉をめざし頑張りたいと思う。

下野市身体障害者福祉会
会長　金島亀夫（かねしま かめお）
平成25年就任

生まれ育った私の家は、純農村地帯ののどかな集落にあった。酒類をはじめ、日用雑貨、食料品、荒物等を扱ういわゆる万屋であった。おまけに炭窯を八基ほど持っており、薪炭商も営んでいた。

昭和15年4月、田圃の中にポツンと建つ小学校に入学した。私の教室での席は、アイウエオ順で一番後ろであった。ところが、その席から先生の書く文字や絵はぼんやりして読むことができなかった。それは一番前の席に移動しても同じであった。

鹿沼市の先の板荷村にはロシアの医師から教えを受けた眼科医がいるとのことで、父と祖母と3人で行くことになった。そこは茅葺きの豪壮な邸宅であった。先生は私を前に座らせると、大きな天眼鏡を持ち診察を始めた。後で聞いたところによると「片方の目はあきらめなさい。もう片方は今よりずっと良くなると思う」と先生は話していたそうだ。その日から約一ヶ月、治療のためにその家での生活が始まった。朝、昼、夕方の3回の治療は目に針を刺す鋭い痛みで、最初は大声で泣いたらしい。治療の合間に板荷駅まで歩きながらこのまま汽車に乗って家に帰りたいと思った。

しかし一ヶ月に及ぶ治療と宇都宮での通院治療を経て、現在の視力に安定した。

絶えず付き添ってくれた祖母は「自分が受けたからかいやいじめは決して他人にするな、人の嫌がることは絶対するな」と諭した。

「あなたの手にもなりましょう」「あなたの足にもなりましょう」

これが私の原点である。

上三川町身体障害者福祉会
会長　橋本一男（はしもと かずお）
平成27年就任

昭和7年、5人兄弟の長男として宇都宮市に生まれる。

両親が豆腐屋を営み、早朝から忙しい家だった。

学校を卒業後、商売に向いていなかったので店を弟に任せ、神奈川県にある日産自動車の社員寮で調理師を目指して働く。真面目に働き、順調に調理師の免許もとれた。2年後、日産自動車栃木工場新設に伴い栃木に戻る。

結婚して、男の子に恵まれる。明るく教育熱心な妻と二人、息子の将来を楽しみに一生懸命働いた。息子は公務員となり、親たちを安心させてくれた。やがて定年を迎え、夫婦でゆっくり旅行を楽しもうとしていた矢先、妻に先立たれ一人暮らしになる。しばらくして自分も体調をくずし、心臓の手術を受け、障害者手帳をもらうことになる。手術後はたいそう心配したが、10年が過ぎ、経過は良好である。

定期検診には毎回息子が付き添ってくれる。息子は近くに住んでいて、毎週、顔を見に来てくれる。

幸いなことに3年前、孫が生まれた。今、わたしの生きがいは、孫と遊ぶこと、障害者福祉会の皆と交流すること。福祉会の行事のなかでは有意義な講演が聞ける。日帰り研修では、福祉会の皆とサポートしあいながら、普段一人では行けないところに行けて楽しい。町の行事に参加する機会もあり、そこでは我々障がい者に対する理解が深まっていると感じる。

会長になって3年が経ち、これからも、健康第一で周囲の人に協力いただきながら、福祉会を盛り上げていきたい。

益子町身体障害者福祉会
会長　加藤文雄（かとう ふみお）
平成29年就任

私は昭和18年、農家の長男として益子町で生まれた。

37年に真岡農業高校を卒業して家業を手伝いながら、農閑期には地元の運送会社で臨時社員として働いていた。

39年に大型免許を取り本社員となった。44年に真岡工業団地ができてから主に団地内の工場からの製品輸送の仕事で、国内各地へ長距離運転を行っていた。

平成14年11月23日、二階にある倉庫で出荷の荷下ろし作業をしていた時に脳出血で倒れてしまった。

電話で知らせて二階から降ろしてもらい、救急車で病院に運ばれた。三日ほどで食事もできたが後遺症が出ると告知され気落ちした。

また、数日後にリハビリを始める矢先、十二指腸炎にかかってしまった。8ヶ月間入院して家に戻り、その後、通所リハビリに通った。

倒れた当日は倉庫係が休みだったためトラックの運転はしていなかった。もし運転中のことであったなら大事故でもっと大変なことになっていたと思う。

今では車でどこにでも出かけられるようになった。

17年福祉会に入会、副会長を経て会長に就任2年目となる。

茂木町身体障害者福祉会
会長　毛塚良俊
平成24年就任

交通事故にて障害者となった私は、早速、町の身体障害者福祉会の会員となった。

当時の会は、活動が盛んで、総会・その後の懇親会・泊りの研修鍛錬会・スポーツ大会など、数多くの行事が開かれていた。

その後、新しく組織された青年部に入り、芳賀郡内の青年部が連合しての「スポーツ教室」は、県の障害者スポーツ協会の指導者を講師に迎え、多くの競技と触れ合い、楽しい一時を過ごすことが出来たことは、すばらしい思い出となっている。

また、昭和60年に鳥取県で開かれた全国身体障害者スポーツ大会（わかとり国体）に選手として参加。

競技はもちろん、開会式の入場行進で栃木県の旗手として出場できたことは、誠に光栄なことだった。

特に、大会出場の私達に随行して下さった県関係の皆様が、選手一人ひとりに心温まるサポートをして頂いたことが、大会の貴重な思い出となっている。

現在、過疎町の身体障害者福祉会の会長となり、会員の減少や高齢化の波が押し寄せ、福祉会の運営に大きな影響を及ぼしている現実を真摯に受けとめ、これからが正念場となることは間違いない。

市貝町身体障害者福祉会
会長　小堀謙介
平成29年就任

今でも思い出す。

５歳になった秋の日、未就学児だった自分は小学校運動会の花形である部落対抗リレーの練習をする青年団メンバーの後について無心に駆けていたこと。運動会の翌日に、忌々しい両下肢麻痺の病魔に冒されてしまった。

元気になって乗り回してくれと父が与えてくれた新品の三輪車もとうとう乗ることは出来ず、昨日まで一緒に駆け回っていた友の姿を遠巻きに見てる幼心の健気でいじらしい風景を。

そんな自分を背負った母が、近隣のマッサージや祈祷所を藁をもつかむ思いで必死に通ったことも。

小学から中学は、隣県の施設に入院、５回の整形手術を含む治療と中学２年までの８年間の義務教育を受けた。

幼い本人は知る術もなかったが入院費用の工面に父親は度々途方に暮れたことを後々母親から聞いた。

高校入学を間近にして故郷に戻り、危なっかしい自転車に乗って地元の中学と高校に通った。

当時の恵まれた雇用情勢から近隣の製造会社に就職が出来、事業主の温かい処遇のもとで、大きな配転もなく40年間を大過なく勤め終え６年前に定年退職した。

退職を機に町の障害者福祉会に参加。昨年から会長を承り、今まで通り楽しめる福祉会を継続して運営することを念頭に置いた。

障害者施策が次々と発効・実施される昨今において、私たちもその目的等を理解した上で、広く耳目を傾け、より一層の有意義な運営に繋げたい。

芳賀町身体障害者福祉会
会長　阿久津（あくつ）　克美（かつみ）
平成22年就任

身障者になって49年。

ある日突然の事故により色々な物を失ってしまった。

だが幸いなことに体力だけは人一倍あったために命は取り留めたが、左半身の機能を失った。

小学校入学以来12年間皆勤賞をもらえなかった方がショックが大きかった。

済生会病院に半年入院したのち、国立塩原病院で3年間機能訓練を続けた結果、日常生活には多少不便な事があったが生活できるようになった。

30代で芳賀町身体障害者福祉会の理事になった。

全国の障害者スポーツ大会（琵琶湖国体）に出場し、金、銀のメダルを取ることができた。

昭和56年の国際障害者年に芳賀郡身体障害者福祉会の青年部長になると同時に理事になる。

青年部員は5町で10名弱で活動をはじめた。

障害者スポーツを体験して、一人でも多くの人に全国の障害者スポーツ大会にも出場してもらいたく、数名の人に良き思い出を作ってもらった。

部員の協力により20年間、中身の濃い活動ができたが、町村合併により、青年部は廃部となった。

8年前に芳賀町身体障害者福祉会長になった。現在は家族と13町歩ほどの水田を経営している。

福祉会の現在の課題は、会員の減少と高齢化が進み、会の維持が困難となった。

会員を増やすために障害者福祉に理解のある方と協力し合いながら活動していくべきである。

壬生町身体障害者福祉会
会長　田中（たなか）　一男（かずお）
昭和54年就任

「継続は力なり」

農家の長男として生を受け、若干18歳で陸軍騎兵となり軍務に精励。終戦となり除隊し農業生産に励む。戦時中、陣地構築中に落盤ありし時打撲のところ腰痛激しきため入院、手術をうけて7年8カ月の闘病を終えてコルセット着用し退院。退院後間もなく父の死、半年後に妻の死、この不条理に天を怨まずにいられず。されど歳月の流れは人を待たず、その間体力も快方に向かい、身体障害者福祉会の入会の誘いを受けた。しかし、当時は障がい者に対し智が遠く「あそこは、障がい者が居る」等の陰口のありし頃、ためらっていると、母の言葉「弱者は弱者と付き合い・・肝に銘ずるものあり」と、一大奮起し入会する。

当時は傷痍軍人が主体で運営され、一般の障がい者は少なかった。入会後は献身的に会運営に協力し多数の会員を擁する団体となる。昭和54年町の身体障害者福祉会の会長となる。その後、郡の会長、栃身連の監事、理事、日身連の評議員を歴任する。

昭和40年壬生町の農業委員となり14期42年務め農林大臣賞受賞、加えて昭和50年町議会議員となり7期28年務め、「旭日双光章」の栄えに浴することができた。

これは、身体障害者福祉会の皆様をはじめ、地域の方々の一方ならぬ御支持、御支援の賜物、心から御礼申し上げる次第。

障がい者の旗振り50年余り、福祉に対する世の中の高い関心がありながら、当会員の減少を愁い、今後を思考しながら、まだまだ地域の障がい者を訪問、支援したい。

塩谷町身体障害者福祉会
会長　鈴木栄一（すずきえいいち）
平成28年就任

２才のとき、左足の付根付近が化膿し、筋肉や腱を大きく切除した。このため歩けなくなってしまった。しかし、母親の必死の自己流リハビリで学校に入学する頃には歩けるようになった。

小学校の頃は、校庭の除草作業のときなど、左足が思うように曲がらないため、姿勢が悪いと校長に蹴飛ばされたり、いじめにあったり、つらいことが多かった。

中学校の頃は体力も付き、自転車で６キロの砂利道を通学できるようになった。

高校生になってからは、ひとより体力が付き、柔道を始め２段となり、部のキャプテンになった。

昭和20年代は見合結婚が主で縁談のとき、障害者のいる家系は嫌われる時代であった。４人の姉がいたので、私が障害者とわかったら、姉たちの縁談に迷惑がかかってしまうと思って、足を引きずって歩かないよう、小学生の頃から努力してきた。

22才のとき、氏家町役場職員となった。事務職のため運動不足となり、８年後には左足を引きずって歩くようになった。

役場のとなりが外科病院だったので院長と相談した。院長は「手術をしてもリスクが多い。このまま見栄を張らず障害者として町の行政に貢献するよう」と調子の良いことを言われ、32才のとき身体障害者手帳の交付を受け、町の福祉会に入会した。

役場を退職後は15年にわたり民生委員を務めた。

一昨年、塩谷町身体障害者福祉会の会長に就任、会のために貢献できるよう努めていきたい。

高根沢町身体障害者福祉会
会長　髙根沢由行（たかねざわよしゆき）
平成25年就任

「激動の時代に生きる」

私は男四人兄弟の次男に生まれた。

小学校は国民学校、高校は奨学金を受けて卒業した。

昭和38年、宇都宮の繁華街３キロ圏内に百貨店が４店舗ある、その中の福田屋百貨店に入社した。商戦の激しい争いと、衣・食・住の移り変わりの早い時代だった。

災害などや業績悪化の為、２店舗が閉鎖した。そんな情勢の中で、福田屋は５店舗になった。私は真岡店、栃木店、鹿沼店の取締役店長として勤務し、平成11年に定年退職した。

退職２か月後、悪性腫瘍がみつかり手術をし、障害者手帳を受けることになった。

日本身体障害者福祉大会には７回参加した。参加されている人達の明るい笑顔に触れ、逞しく行動する姿を見て、胸一杯に感動した。

現在、地域の仲間と囲碁・カラオケ・旅行と、健康に注意しながら毎日を送っているが、私も会員の方々に何か一つでも手助けが出来ないかと思った。

新規会員を増やすために、障害者福祉に理解のある方と協力し合いながら、障害者手帳の交付窓口で「入会のお誘い」を手渡し、知り合いで障害をお持ちの方、趣味仲間の障害者の方等に入会を積極的に勧めていきたい。

那須町身体障害者福祉会
会長　矢島　晃（やじま　あきら）
平成28年就任

昭和16年東京中野区に生まれる。家業は水車小屋。終戦の時は、家の地下防空壕で過ごす。現在も江古田大橋に水車小屋の版画がある。小学５年から中学まで新聞配達をし、高校では教諭の勧めで写真部を創設。高校３年間をとおして富士フイルム写真賞を頂き、新聞社写真部に推薦入社し、新潟地震や全学連デモ等を報道する。また、千葉県ＰＲ映画センターへ出向し、県政映画、県民の顔やふるさとの文化を撮影し文科省から表彰される。その後毎日新聞へ戻り、昭和51年佐賀国体の撮影依頼があり、佐賀の取材３日目のこと、唐津からの帰りに多久市の国道で大型ダンプがスリップし正面衝突され意識不明で1.5時間後に救出されるが、多久の病院に搬送されるも入院できず、九州一の名医を紹介され一年間入院。大腿骨折と両下肢全廃の診断だった。退院後は本社編集部へ在籍していたが、松葉杖での通勤途中、西船橋駅にてラッシュ時に後ろから押されホームへ転落、駅員に救出される。その後会社を退職し、道路公団千葉北料金所事務長兼機関誌「高速だより」の表紙担当で勤務。船橋市身体障害者の会では７年にわたり広報部長を務め、機関誌「さざんか」を年４回発行する。

平成４年、那須町に転居。現在はデイサービスセンターを経営。東日本大震災後は、石巻市の他６つの地域へ、毎月食料、衣料、その他希望によりテーブル、椅子、ストーブ等を届けている。

障害者は日の当たる所でいろんなひとと出会い交流をもってほしいと思う。

那珂川町身体障害者福祉会
会長　笹沼之子（ささぬま　ゆきこ）
平成22年就任

７人兄弟の末っ子、旧二宮町に生まれる。８歳の時に母が亡くなり、姉達が面倒を見てくれた。

また、この地は二人の偉人・親鸞聖人、二宮尊徳の縁の地でもある。二人の教えは、私の生き方、精神部分で影響があったのではと思う。

高校卒業後、東京の税理会計事務所に勤務。23歳で父を亡くし、これを機に宇都宮に引っ越し会社に勤める。

結婚して馬頭に住み、山に囲まれた地域で驚く。２人の女の子に恵まれ、地区のソフトボール部に誘われ入部。ナイター試合等で汗を流し、他町との試合にも出場した。

39歳の時、仕事先で受傷、右手全指欠損し18日間の入院。先の事を考えると涙も出ず、落ち込んではいられないと自分に言い聞かす。

58年に町の福祉会に入会。県スポーツ大会、研修等に参加。福祉会の地区役員を経て県身連女性部設立に参画、各市町の代表者と交流する。

絵を描いたり、鑑賞する事が好きなので、美術館のボランティアを始める。

民生委員児童委員の役職を15年務め、社会福祉協議会のボランティアにも参加。この時にできた人脈、情報は、福祉会の事業に役立っている。福祉会も高齢化が進み、会合の席で介護施設等の相談もあり、介護施設の運営推進委員をしているので、情報を得る事ができるため、話をする。

会長になって困った事は、自動車の運転免許証がなく、行動範囲が狭く会員、役員の方に迷惑をかけているが、皆がカバーして下さるので後２年頑張りたいと思う。

栃身連の歩みと歴代会長

昭和25年の身体障害者福祉法施行を受け、県内各市町では福祉会結成の気運が高まりました。

栃木県身体障害者福祉会連合会は、県内８郡12市の身体障害者福祉会が一丸となり、社会参加の促進と障害者福祉の啓発を目的に、昭和33年６月３日、任意団体として発足。翌34年５月には機関紙「栃身連」を創刊することができました。

川村直永氏は、昭和28年に矢板町身体障害者更生会を設立、30年に塩谷郡身体障害者福祉会を設立、その後本会の設立に尽力、初代会長に推され就任しました。身体障害者の福祉と社会復帰に心血を注ぎ、温厚清廉なお人柄で会の発展に尽くされました。昭和42年、東北線踏切での事故により急逝、突然の訃報でした。

坂本茂氏は、昭和31年に宇都宮市肢体障害者福祉会を設立、その翌年に宇都宮市身体障害者福祉会連合会を設立後、初代川村会長とともに本会設立に尽力、副会長兼事務局長としてスタートしました。川村会長逝去後は会長に就任、94歳にてご勇退を決意されるまで、長きにわたり会を牽引、多大な功績を残されました。

▲左・初代会長　川村 直永
（昭和33年～昭和42年）

▲右・第２代会長　坂本　茂
（昭和42年～平成７年）

平成７年、当時の副会長であった小川榮一氏がご高齢だった坂本会長から後を託されました。17年に日本身体障害者団体連合会会長就任後は障害者施策が大きな転換期を迎えます。21年内閣府が障がい者制度改革推進本部を設置、その関係会議等では重責を担い激務の中にありました。23年の東日本大震災当日はご自身も東京にて被災、すぐに帰郷することができませんでしたが、日身連会長として１カ月足らずのうちに被災地を視察、激励訪問に駆け付けました。平成25年６月ご病気のため逝去。障害者福祉のために休むことなく歩まれたご生涯でした。

「身体障害者福祉法施行50周年記念」日本身体障害者福祉大会にて

▲左端・第３代会長　小川 榮一（平成７年～平成25年）

▼中央・第４代会長　麦倉 仁巳

小川会長逝去後、平成25年７月２日に開催された理事会及び評議員会において全会一致で推挙され就任、現在の主な役職は次のとおりです。

社会福祉法人宇都宮市障害者福祉会連合会会長
栃木県身体障害者団体連絡協議会会長
特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会会長
社会福祉法人栃木県社会福祉協議会副会長
社会福祉法人日本身体障害者団体連合会評議員

身体障害者福祉関係年表（概要）

年	国内外の動き	栃木県の動き
昭和25年（1950）	身体障害者福祉法 施行	
昭和26年（1951）	社会福祉事業法　施行	栃木県社会福祉協議会　設立
昭和27年（1952）	戦傷病者戦没者遺族等援護法　施行 身体障害者旅客運賃割引規程　施行	第１回栃木県身体障害者福祉大会　開催 栃木県義肢製作所　開所
昭和33年（1958）	日本身体障害者団体連合会　発足 第１回日本身体障害者福祉大会　東京で開催	**栃木県身体障害者福祉会連合会　任意団体として発足**
昭和35年（1960）	第１回パラリンピック競技大会　ローマで開催 身体障害者雇用促進法　施行	肢体不自由児施設若草学園　開設
昭和36年（1961）	障害福祉年金支給開始	身体障害者更生指導所　開所
昭和37年（1962）		第1回栃木県身体障害者スポーツ大会　開催
昭和39年（1964）	国際身体障害者スポーツ大会（パラリンピック）東京で開催	第9回日本身体障害者福祉大会　栃木県で開催
昭和40年（1965）	第１回全国身体障害者スポーツ大会　岐阜県で開催	
昭和45年（1970）	障害者基本法　施行	
昭和48年（1973）		栃木県身体障害者医療福祉センター　開設
昭和49年（1974）		栃木県身体障害者福祉会館　開設
昭和54年（1979）	養護学校教育義務制実施	栃木県身体障害者団体連絡協議会　設立
昭和55年（1980）		第16回全国身体障害者スポーツ大会　栃木県で開催
昭和56年（1981）	国際障害者年～完全参加と平等～ 第1回国際身体障害者技能競技大会（アビリンピック）東京で開催	
昭和58年（1983）	国連障害者の十年（1983～1992）	栃木県障害者福祉に関する長期行動計画　策定 栃木県障害者保養センター那珂川苑　開設
昭和59年（1984）		**栃木県身体障害者福祉会連合会　財団法人認可**
平成元年（1989）	高齢者保健福祉推進10か年戦略　策定	栃木県障害者スポーツ協会　設立
平成 5年（1993）	アジア太平洋障害者の十年（1993～2002） 障害者基本法　改正	とちぎ障害者福祉プラン（1993～2000）策定
平成 6年（1994）	ハートビル法　施行	
平成 7年（1995）	障害者プラン（ノーマライゼーション７か年戦略）策定	第１回栃木県民福祉のつどい　開催
平成 8年（1996）		**第１回栃木県身体障害者福祉のつどい　開催**
平成12年（2000）	交通バリアフリー法　施行	とちぎ福祉プラザ　開館
平成13年（2001）	第１回全国障害者スポーツ大会　宮城県で開催 （身体障害者と知的障害者の全国大会統合）	とちぎリハビリテーションセンター　開設
平成14年（2002）	身体障害者補助犬法　成立	
平成15年（2003）	アジア太平洋障害者の十年（2003～2012） 支援費制度　施行	とちぎ障害者プラン21（2003～2008）策定
平成18年（2006）	障害者権利条約　国連で採択 障害者自立支援法　施行	
平成19年（2007）	障害者権利条約　日本政府署名	
平成21年（2009）	障がい者制度改革推進本部　設置	新とちぎ障害者プラン21（2009～2014）策定
平成23年（2011）	改正障害者基本法　公布	
平成24年（2012）	障害者虐待防止法　施行	
平成25年（2013）	障害者総合支援法　施行	**栃木県身体障害者福祉会連合会　一般財団法人移行**
平成27年（2015）		とちぎ障害者プラン21（2015～2020）策定
平成28年（2016）	障害者差別解消法　施行	栃木県障害者差別解消推進条例　施行 障害者スポーツセンター（わかくさアリーナ）開設
平成29年（2017）		第37回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）栃木県で開催

構成団体名簿	
社会福祉法人宇都宮市障害者福祉会連合会 宇都宮市中央1-1-15 宇都宮市総合福祉センター内	TEL028(637)7771
足利市身体障害者福祉会連合会 足利市本城3-2145 足利市福祉事務所内	TEL0284(20)2134
栃木市身体障害者福祉会連合会 栃木市万町9-25 栃木市福祉総務課内	TEL0282(21)2204
佐野市身体障がい者福祉会 佐野市赤見町888-1 会長自宅(平成30年7月1日から)	TEL0283(25)3872
鹿沼市身体障害者親交福祉会 鹿沼市今宮町1688-1 鹿沼市福祉事務所内	TEL0289(63)2176
日光市身体障がい者福祉連合会 日光市今市511-1 日光市社会福祉協議会内	TEL0288(21)2759
小山市身体障害者福祉会連合会 小山市中央町1-1-1 小山市福祉事務所内	TEL0285(22)9624
真岡市身体障害者福祉会 真岡市荒町110-1 真岡市社会福祉協議会内	TEL0285(82)8844
大田原市身体障害者福祉会 大田原市本町1-4-1 大田原市福祉事務所内	TEL0287(23)8707
矢板市身体障害者福祉会 矢板市本町5-4 矢板市福祉事務所内	TEL0287(43)1116
那須塩原市身体障害者福祉会 那須塩原市南郷屋5-163 那須塩原市社会福祉協議会内	TEL0287(37)5122
さくら市身体障害者福祉会 さくら市喜連川904 さくら市社会福祉協議会内	TEL028(686)2670
那須烏山市身体障害者福祉会 那須烏山市田野倉85-1 那須烏山市社会福祉協議会内	TEL0287(88)7881
下野市身体障害者福祉会 下野市小金井789 下野市社会福祉協議会内	TEL0285(43)1236
上三川町身体障害者福祉会 上三川町石田1247-2 庶務担当自宅	TEL0285(56)7925
益子町身体障害者福祉会 益子町益子1532-5 益子町社会福祉協議会内	TEL0285(70)1117
茂木町身体障害者福祉会 茂木町茂木1043-1 茂木町社会福祉協議会内	TEL0285(63)4969
市貝町身体障害者福祉会 市貝町市塙1720-1 市貝町社会福祉協議会内	TEL0285(68)3151
芳賀町身体障害者福祉会 芳賀町祖母井297-1 芳賀町社会福祉協議会内	TEL028(677)4711
壬生町身体障害者福祉会 壬生町壬生甲3843-1 壬生町社会福祉協議会内	TEL0282(82)7899
塩谷町身体障害者福祉会 塩谷町玉生872 塩谷町社会福祉協議会内	TEL0287(45)0133
高根沢町身体障害者福祉会 高根沢町石末1825 高根沢町社会福祉協議会内	TEL028(675)4777
那須町身体障害者福祉会 那須町大字寺子丙3-13 那須町保健福祉課内	TEL0287(72)6917
那珂川町身体障害者福祉会 那珂川町馬頭560-1 那珂川町社会福祉協議会内	TEL0287(92)2226

団体長変更のお知らせ

平成30年６月30日　佐野市身体障がい者福祉会
（旧）横 塚 武 夫 →（新）大 澤 安 夫

平成30年４月27日　日光市身体障がい者福祉連合会
（旧）君 島 一 →（新）宮 本 一 夫

役員名簿		
代表理事　会長	麦 倉 仁 巳	宇都宮市
理事　副会長	室 井 祐	矢板市
理事　副会長	江 原 昭 吉	栃木市
理事　副会長	白 井 新	さくら市
理事　副会長	前 田 則 隆	大田原市
理事	原 康	足利市
理事	横 塚 武 夫	佐野市
理事	葉 山 廣	鹿沼市
理事	君 島 一	日光市
理事	清 水 浩	小山市
理事	村 上 八 郎	真岡市
理事	高 橋 亨	那須塩原市
理事	岡 崎 一 良	那須烏山市
理事	金 島 亀 夫	下野市
監事	中 村 富 頼	宇都宮市
監事	植 木 紀代子	足利市
監事	渡 邉 登	大田原市
評議員	加 藤 文 雄	益子町
評議員	毛 塚 良 俊	茂木町
評議員	小 堀 謙 介	市貝町
評議員	阿久津 克 美	芳賀町
評議員	田 中 一 男	壬生町
評議員	鈴 木 榮 一	塩谷町
評議員	髙根沢 由 行	高根沢町
評議員	矢 島 晃	那須町
評議員	笹 沼 之 子	那珂川町
評議員	新 井 文 雄	足利市
評議員	坂 本 邦 雄	栃木市
評議員	荒 井 ト ヨ	大田原市
評議員	新 村 一 男	栃身協

welcome

各市町福祉会では会員を募集しています

親睦や交流を深めるためにスポーツ、旅行、研修会など様々な事業を実施しています

どうぞお問い合わせください